

体験授業概要

MMU OPEN CAMPUS 2025

茶園 梨加 准教授（言語・文化専攻）

地域文化入門—地域の表現から人びとの精神史を探る



| 先生の詳細はこちら |



授業内容

地域文化研究は、間口の広い研究の領域です。地域の慣習や、文化財、芸術表現との関連など、多様なアプローチがあります。今回は、九州における地域の表現を例に、どのような特徴が見出せるか考えてみます。

体験授業では、1950年代の福岡県の炭坑町で創られた版画と文による「えばなし」を取り上げます。面白いことに、70年代後半の宮崎県高千穂町の土呂久地区でも、版画と文の組み合わせで物語が創られます。時間と空間を超えて、それぞれがどのように関連しているのか考えてみましょう。

山下 裕亮 准教授（メディア・コミュニケーション専攻）

知っていますか？最大規模『ではない』南海トラフ地震



| 先生の詳細はこちら |



授業内容

地震災害に備えるとき、災害像をイメージすることはとても重要です。例えば、将来必ず発生する南海トラフ地震、宮崎県内であれば最大震度7、最大津波高17mというすごい数字をよくテレビや新聞等で見聞きしていると思います。これは、想定外をなくすために作られた最大規模の南海トラフ地震が起こったときの災害像です。実際には、同じ南海トラフ地震であってもいろんなパターンがあり、災害像にも大きな幅があります。最大規模『ではない』パターンを知らないと、思わぬ想定外に直面し、最悪の場合は命を失います。

この授業では、最大規模『ではない』南海トラフ地震の一例を紹介し、一緒に災害像の幅を知ることの重要性を考えてみましょう！